

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス プレミアムやよい坂		
○保護者評価実施期間	2026年1月4日		2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2026年1月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心安全な環境と保護者様との信頼関係	施設の施設はもちろん、窓の二重ロック、毎日の鍵チェックなど徹底で行っています。地震、不審者、風水害、火災の避難訓練はご利用者様と共に、保護者様にもご報告しています。日々の送迎時には保護者様とご様子等をしっかりと共有し、ご家庭とデイ、将来のために、今だけの支援をしないという事を実行しています	避難訓練が行われていることや訓練の様子は周知できていましたが、マニュアルの存在や内容を知らないという声を大切に、今後はプレミアム新聞や口頭での発信にも力をいれていく。保護者様のご予定、学校行事に関わる学年のお子様への先の準備することなど、細やかな気配りを怠らざりに行っていく。
2	迅速な対応、急変への柔軟な対応	ご利用者様ご本人のことはもちろん、ご家族様、ご兄弟、それぞれ急に具合が悪くなるなど、何事もない一年はありません。その都度、情報を頂き、送迎時間を変更するなど、ご家族様のサポートにも努めています。日々の連絡帳のやり取りだけでなく、電話やメールも活用して保護者の想いを丁寧に対応しています。	ガイドラインや様々なルールが変わるたびに、保護者様にご説明にあがっていましたが、理解が難しいことも多く、苦慮しました。ルール関係はわかるまで回数を重ねるなどしっかりと伝えていくことで、急なお困りごとでも一からルール説明をしなくて良い。よりスムーズになる。そして何よりも感謝の気持ちを忘れずに保護者の期待に答えていきたい。
3	本気の支援	スタッフ全員が子ども達の成長を心から願い、個々の子どもの情報を共有し、様々な見立てで関わり方などをトライし、そして支援の一貫を図るためミーティングや個別会議、その瞬間を共有しての伝達など行っている。楽しく学ぶ。成長を共に喜び、失敗を分かち悔しがる、お子様の成長に関わらせて頂けることに感謝を忘れません。	スタッフのスキルを補う、知識を増やすため社内での研修充実化を図り、実践に活かしていきたい。研修と名が付く必要はなく、日々のミーティング内で様々な事例を挙げるなど、スタッフ達の忌憚ない意見交換もおこないたい。児童発達支援管理責任者の役割も見直し、より良い支援を常に目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもも活動する機会	望んでいない保護者様も居る。交流する必要、目的や目標が明確でなく、それは障がい福祉をアピールするため、だけの事ではないか、という意見もある。市は交流を求めてもスタッフや場所を提供することなく他害や自傷、危険な強度行動障がいの方を事業所だけの責任で外に連れて行くことは命の責任についての問題が考えられます。	「児童クラブ」「児童館」「地域の子ども」となげ子ども限定の自己評価票チェック項目なのかによりませんが、ご利用の方が子どもだからといって子ども同士がうまくいくとも限りません。そのため、限定せずに、まずは外に出る練習を行っています。デイは個別対応もしますが、基本は集団行動です。多くの人と外に出るルールやマナーを教えてください。
2	ペアレント・トレーニング等や家族等も参加研修会の開催	どこかで行われている研修のお知らせを渡すことはできますが、事業所で開催すること、という事はどこまでが放課後等デイサービスの領域か、研修参加と協議会を押しされますが、外に研修に行く必要はなくなります。開催することがチェック項目にある事自体が現場の状況とそぐわない。そして、保護者様にとっても勝手なレッテル貼りで悲しい思いをされている方もいて、一律のペアレントトレーニングを望まれるか、検討する必要がある。	「研修会」と形式的なことではなく、送迎時に直接お目にかかり、詳しくお子様の成長や課題をお話しし、その時々で変わるお気持ちに寄り添いながら、保護者様にも適宜にアドバイスをしています。今後も、直接保護者様に会える送迎を大切にしていこう。
3	マニュアルなど、文書の周知	保護者様からすると「マニュアル」や「文書」となるとなかなか難しいというイメージがあるかもしれません。直接お話ししても、「知らない」「よく覚えていない」という方が多くいらっしゃいます。聞く時間がないという方も。お子様の障がい特性にもよりますが、文書を読む暇などないというのが本音かもしれません。	一度にまとめてお話しするのではなく、数回に分ける。あらかじめ、お話しする事をお伝えして時間の都合がつかない場合にお話しする。知りたい、と思って頂けるようにご自身の身に置き換えてお話ししてみる。など、嫌な気持ち、負担にならないような工夫をして大事な事は時間をかけて周知していきたい。